

A コース

みどころスポット



1 「難波御蔵・難波新川跡」の碑

なんば おくら

難波御蔵とは江戸幕府直轄の米蔵のことで。災害時の救援米貯蔵の役割を担いました。寛政3年(1791年)に天王寺御蔵と合併、43,000石という広大な敷地を誇ったそうです。蔵への水運向上のため開削されたのが難波新川で、明治11年(1878年)いたち川と連絡するも、後に埋め立てられました。

9 天王寺動物園

大正4年(1915年)1月1日に開園した100年をこえる歴史をもつ動物園です。およそ11haの園内には、およそ180種、1,000点の動物が飼育されており、アフリカサバンナゾーンなど動物の生息地の環境を可能な限り再現した上で、そこに暮らす動物の様子を紹介する「生態的展示」に力を入れています。

2 「鮠川くり船発掘の地」の碑

いたちかわ

明治時代、いたち川と難波新川の真通工事中、古墳時代のものと思われるくり船が発掘されました。くり船とは丸木船のごとで、巧みな仕組になっていたそうです。船出向の旧町名はこれに由来し、明治から昭和までの約80年間使われていました。

10 「大阪国技館跡」の碑

大阪と相撲とのかわり目は古く、江戸とならんで相撲の興行が盛んなところでした。大正8年(1919年)9月12日、丸屋根の優美な洋風建築の国技館として建てられました。昭和2年(1927年)東西相撲の合併で大日本相撲協会が設立。相撲興行の中心は東京の両国国技館になり、建物も第二次世界大戦中、空襲で焼失しました。

3 浪芳庵

なみよしあん

創業安政5年(1858年) 名物は「炙りみたらし」 老舗ながらの愛され続けたい逸品をぜひ!

7 釣鐘屋本舗

釣鐘屋本舗

創業明治33年(1900年) 「釣鐘まんじゅう」は新世界名物

にぎわい満載★1912年誕生! 新世界ヒストリー

新世界・通天閣は平成24年(2012年)に100周年を迎えました。そもそも新世界は明治36年(1903年)に開催された第5回内閣勲業博覧会の跡地の一部で、博覧会終了後に西側に新世界、東側を天王寺公園として整備されました。新世界の名は、パリとニューヨークを足して2で割ったような新名所をめぐらしたのが由来と言われており、放射状の街路はパリの街を思わせます。明治45年(1912年)7月には、凱旋門とエッフェル塔を模した初代通天閣と、遊園地ルナパークが開業。大正4年(1915年)には天王寺動物園が開園。さらに大正8年(1919年)には大阪国技館も建設され、一大歓楽地として栄えました。現在でも昭和の面影を色濃く残すジャンジャン横丁や大衆演劇場、車カッパなどで焼きき大阪名物を味わえる飲食店などが立ち並び、将棋名人・坂田三吉ゆかりの地らしく囲碁・将棋クラブも軒を連ねており、昭和31年(1956年)に再建された2代目通天閣を中心に新世界エリアには市民や観光客が多く訪れ、年中賑わいをみせています。

5 廣田神社

ひろた

痔疾をはじめ難病悪疾の守り神として信仰されているアカエ(アカエイ)を神使としている神社です。昔、この周辺は漁師町でした。痔疾は漁師の方々の職業病のようなもの。アカエ信仰が深く根付いたのもうなずけます。また観音の「エイ」に通じる合格・必勝を祈願する参拝者も多くいらっしゃいます。



6 今宮戎神社

聖徳太子の四天王寺建立にさいし、西方の鎮護神として創建されたのが始まり。左廂に鯛・右手に釣竿をもつ戎さま。もととも漁業の守り神であったのが今では商業の繁栄を祈願する神としても厚く信仰されるようになりました。「十日えびす」(毎年1月9~11日)では「商売繁盛で管轄つてい」のお祭りが賑わります。

B コース

みどころスポット



1 朝日劇場

古くて新しい、エンターテインメントを楽しむ場所。新世界には年中大衆演劇を楽しめる芝居小屋があります。芝居や舞踊、歌謡ショーがリーズナブルな料金で楽しめるのが大衆演劇の良さ。最近ではお笑いイベントも。懐かしさを感じる建物も魅力的!新世界で体験してみたいか?

8 なんばパークス

グルメ・ショッピングを満喫できる、駅直結の都心のオアシス空間です。屋上につばりの緑がある個性的な建物も、六本木ヒルズも手がけたジョン・ジャディ氏の設計、大峡谷をイメージした雄大な外観が特長。若者からファミリーまで、口呆めるスポットです。

3 新世界市場

ノスタルジーな気分になれる、ディープな商店街、新世界市場。通天閣を中心に放射状に伸びる様々な商店街・通りの中でも、新世界市場は特に昭和レトロな雰囲気漂わせており、和菓子や銘茶の老舗、世界的なジャズレーベルなど個性豊かな店が軒を連ねています。みなさんに楽しんでいただけたら「お楽しみコーナー」もあります。

10 湊町リバープレイス・なんばHatch

大型ライブハウス「なんばHatch」やFM大阪、カフェ、レストランが入っており、八角形のフォルムが特徴的。屋外イベントスペース「プラザ」では多様なイベントが開催されています。また道頓堀川にかけられた「浮遊橋」を渡れば堀江エリアにも直結しており、若者のテートスポットとしても人気です。

4 大阪木津卸売市場

“食い倒れのまち”大阪の台所として食文化を支えてきた歴史のある市場。魚介類や青果等の約150店舗が営業。民間地産卸売市場として日本最大級の規模を誇ります。毎月第2・最終土曜は一般客向けに開放する“木津の朝市”も開催! 市場の業務用スーパーやスーパー銭湯も併設。おすすめのスポットです。

時代のニーズで変化する 最先端の趣味のまち 日本橋界限

「でんでんタウン」の愛称で知られる日本橋のメインストリート堺筋は、かつて古本屋や古着屋が立ち並び、第二次世界大戦後はフジオや無線部品などを扱う専門店が軒を連ねました。その後、高度経済成長、1丁の進展に伴い家電量販店やパソコンショップなどが増加し、東京の秋葉原と並ぶ電気街として「西のニッポンシ」和称されるようになりました。パソコン、プラモデル、電子部品、高級オーディオに強みのある「でんでんタウン(日本橋筋商店街)」の西側に、アニメやゲーム、フィギュア、コスプレといったポップカルチャー関連などのお店が軒を連ね、通称「オタロード(日本橋筋西通り高店会)」の名で若者を中心に親しまれています。昨今はインバウンドによる外国人観光客も多く、国内外を問わず来街者で賑わいを見せています。また、年に一度開催される日本最大級のポップカルチャーの聖地として「日本橋トリートフェスタ」では、日本橋の魅力がより多く発信されています。扱う商材の変化に合わせて、いつの時代も「最先端の趣味のまち」として賑わいを見せている日本橋界限に今後も注目です。

5 オタロード

6 日本橋商店街エリア(でんでんタウン)



7 御蔵跡履物街(はきはきタウン)

全長400mの通りにサンダルや草履などを扱う店舗が軒を連ね、下町情緒が漂います。浅草の花川戸と並び、「はきはきタウン」の愛称で全国に知られています。毎年10月の第4金・土曜日は、一般客も購入できる「暫文払い」があり、多くの購入者にぎわいます。

C コース

みどころスポット



1 瑞龍寺(通称・鉄眼寺)

ずいりゅうじ てつげんじ

黄檗宗萬福寺末寺で、本尊は薬師三尊。江戸初期、黄檗僧鉄眼和尚がこを一切経募財の拠点としました。大銅鑪の際には募財を全て投げ出し難民救済に当たったの方を救いました。一切経の開削で我が国に明朝体が発見され、印刷技術の発展に大きく貢献しました。境内には浪速伝人塚があります。

7 願泉寺

がんせんじ

小野妹子の八男、多喜麩長が創建しました。江戸時代は紀伊徳川家の参勤交代の陣屋となり、二ツ葉葵の寄附を許されていた由緒を誇ります。京都の作家相阿弥(そうあみ)の構想と伝わる結木山の庭園は大阪府指定名勝、通知の結木山遺蹟は大阪市の有形文化財に指定されています。

2 難波八阪神社

獅子頭を模した高さ12m、幅11mの巨大な獅子舞台がおなじみです。平成13年(2001年)には約230年ぶりに夏祭りの船渡御を復活させて話題になりました。始まりは仁徳天皇の御代といわれ、難波・帯の産土神(ぶすなのかみ)として信仰されました。現在の社殿は戦後再建されたものです。

8 「西濱水平社発祥の地」碑

大正時代、部落差別の撤廃をめざして京都で全国水平社が結成されたのを機に、大阪でも西濱水平社が結成されました。後に全国水平社の本部が置かれ、全国的な中心地になります。本部が置かれていた栄町4丁目(現在の浪速東3丁目の公園の一角)に、平和・人権の確立とあらゆる差別撤廃の誓いをあらたにする顕彰碑が設置されました。

3 「折口信夫生誕の地」碑

折口信夫は日本を代表する民俗学者です。明治20年(1887年)、西成郡木津村市場筋、現在の浪速区敷津西1丁目に生まれ、戦前から戦後にかけて国文学者・歌人・民俗学者として活躍しました。同碑は市制70周年記念として建てられ、昭和58年(1983年)に「十日戎」の一文字を刻んで文学碑も建立されました。

9 浪速区とクラフトの歴史 和太鼓・レザークラフトの集積

浪速区は、電気街やポップカルチャーで有名な日本橋エリアをはじめ、ものづくりが盛んですが、ここ芦屋橋エリアは、クラフトマンシップに溢れています。古くは、皮なめしや太鼓づくりが盛んでしたが、とりわけ近世、渡邊村の太鼓職人・太鼓屋又兵衛はその高い技術で知られていました。靴やカバン、革小物といった日常生活に密着した製品や、300年以上の歴史を有する和太鼓づくりなど、地場産業として地域に根づき、伝統の技術が今に継承されています。

4 大國主神社(敷津松之宮) 木津勘助の銅像

社伝によれば、神功皇后が航海の安全を祈念し松の木を三本植え、養蚕鳴鶴(すさのおのみこと)をお祀りになったことから「松之宮」と呼ばれたとあります。「今宮の成さん、木津の大國さん」として親しまれ、初詣や十日戎には双方を参拝する風習が今も残っています。境内には木津勘助の銅像と折口信夫の慰霊碑が。境内には木津勘助の銅像と折口信夫の慰霊碑が。



6 唯専寺

唯せんじ

用明天皇の時代が始まりといわれ寛永14年(1637年) 鑄造の梵鐘や木津勘助の墓があります。木津勘助は木津川の開削、新田開発で大阪の発展に貢献。寛永16年(1639年)の大飢饉の際には私財を投じて村人を救うも足りず「お蔵破り」を決行。その罪で蓋島(現在の大正区)に流され万治3年(1660年)に75歳で亡くなりました。

